

過疎地の暮らしを守ろう

移動スーパー事業を全国展開する「とくし丸」(徳島市)の創業メンバー村上稔さん(54)＝徳島市北矢三町＝が、岩波ブックレットから著書「買い物難民対策で田舎を残す」(A5判、79頁、税別620円)を出した。公共交通機関の縮小やスーパーの撤退が進み、「買い物難民」が全国的課題となる現状を分析する。移動スーパーのノウハウや、公民連携で対策に乗り出している他県の事例を示し、過疎地の暮らしを守って「こう」と呼び掛ける。

「とくし丸」創業メンバーが著書

村上さんは、「とくし丸」務めている。

がスタートした2012年か 著書では、住民によるミニ事業に携わり、15年から徳 スーパーの運営など全国の買島、香川両県での事業を運営 買い物難民対策のほか、とくし丸の運営手法を解説。「スー



移動スーパーのノウハウを紹介する著書を刊行した村上さん＝徳島市の「Tサポート」

実践者の出現期待

バーと連携することで品数が多様になり、在庫を持つ必要もなくなる」「地域を歩いてニーズを聞き取り、顧客を開拓する」など、これまで培った黒字化のノウハウを詳しく伝えている。

採算の取れない過疎地で事業を展開、継続するには公民連携が鍵になるとし、移動スーパー業者が自治体から高齢者の見守り事業を委託されている鳥取県の事例を紹介している。

「生きる中で食べる喜びは大きい。移動スーパーはその喜びを支える仕事」と村上さんは言う。本を書き上げた後の8月、とくし丸は美馬市から車両購入費や運営補助を受けて木屋平地区での運行を始めた。「他の過疎地でも、行政との連携を模索したい」とする。

近代化は都市への人口集中を促してきた。しかし、「新型コロナウイルスによって、人口集中にリスクがあることが分かった。帰る田舎を残すためにも、買い物難民対策は必要。本を読んだ人が実践者になってくれたらうれしい」と話している。(木下真寿美)